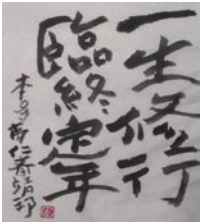
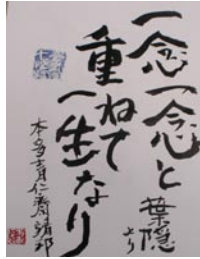


**合気道青葉塾道場 道場主
本田靖生 (合気道七段)**

合気道・無双直伝英信流居合・
神道夢想流杖術・戸山流抜刀術・
明府真影流手裏剣術
武術家としての別名

本多青仁齋靖邦



本多青仁齋靖那

名付けの由来

「皇紀まさに二〇〇三年

(西暦1943年)

昭和18年 卯月四月 本田靖生

肥後の国に生をうける

皇紀二〇三三年

(西暦1973年)

昭和48年 葉月八月 相模の国

横浜・青葉区青葉台に居を構える

「青」に縁あり 合気道の道場を

青葉塾と名付け開設 武術の字を

本多青仁齋靖那と号す

青仁齋は「せいじんさい」にあ

らず「あおにさい」と称する

なり 処世術 未だ巧みならざり

未熟 即ち「未だ仁に青し」

徳少なし そのいたらざる性根

武術修行をもつて変えんと欲す

蓋し その道や 遠く 険し

さらに さらに 遙かなり」

青仁齋のうらなひ

<http://seijinsai.blog9.fc2.com/>

稽古は最初から最後まで時間どおりびっちりやることはもちろん大切だが、やむおえない事情で早く帰らなければならぬ、用事があつ

て稽古の途中に参加しなければならぬ、こういうことがあつて、フルに稽古ができないというのは、いつこうにかまわぬ。途中で帰つてもいい。途中から来てもいい。要は稽古の日に、道衣に着替えて道場の畳の上に立つことだ。それでも十分稽古になる。稽古するということはその気持ちを持ち続けていくことなのだから。(平成22年12月21日・ブログ青仁齋のひとりごとより)



全日本合気道演武大会 5月 日本武道館



全日本合気道少年練成大会 7月 日本武道館



山梨県勝沼・大善寺夏合宿

本多青仁齋の武道稽古日記

<http://blogs.yahoo.co.jp/aonisai10719>

本部道場鏡開き式典にて七段位に推薦される。(2009.1.11)

年明け早々、1月11日、本部道場の鏡開きで、七段位に推荐されることになった。本部道場入門は40年前の昭和44年8月である。1年前、大病を患い体重48キロのガリガリになって、自信喪失。何かせねばとさまよっていると最初に初対面の人に、「合気道やりませんか？」と誘われた。「やりませぬ。すでに連れてって欲しい」と即答したのに、意外や意外、とまどったような表情なのだ。だいぶたって、7月20日だった。早朝6時、新宿伊勢丹前の角筈という都電の乗り場で待ち合わせた。本部道場は若松町にある。早稲田大学の近く。山岳部のトレーニングのマラソンコースだった。入部体験の1年生、ゆっくり走ってきて、いきなり若松町までの坂をダッシュさせられた時は、あれはもう死ぬかと思っただ。その地獄の坂道を、電車を降りて、昔を思い出しながら本部まで歩いた。事務室におられた腰

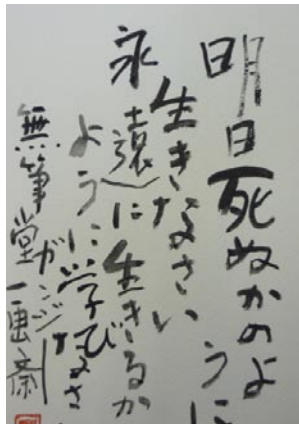
低い穏やかな顔つきのかたが、見学に来たことを告げると、ニコニコしながら応対してくれた。朝一番の稽古は6時半。それを昼の外の板張りで待っていたら、さっきの応対してくれた優しい笑顔の方が正面にやってきた。植芝吉祥丸先生だった。武道家然とした武張った様子はなく、淡々と技の模範を示され、道場内を丁寧にもわって一人一人声をかけながら指導をされる。「あ、これだな。この合気道をずっと続けよう」とすぐに決めた。帰り際、入門の手続きをしようとする、その紹介してくれた人が、「7月はあと10日もないんだから、区切りのいい8月1日にしなさい」といって事務所の人に8

月入会と決めてしまった。一年前の8月に倒れて、その一年後に合気道に挑戦するというのも、心機一転のスタートにはいいだろうと私も了承した。どうも後で聞くとその方は私に合気道を勧めておきながら、実際、まだやってなくて、あわてて入門したんだそうである。私が、「やりませぬ」といったときのあの戸惑っていた顔つきはそういうことだったのだ。50年前、植芝盛平翁が3ヶ月前に亡くなられた大きな節目の年だった。紹介者は稲越薫さん。私より10歳年上。こ

の方と、二代目道主、植芝吉祥丸との出会いで、合気道という武術にめぐり合い、体力を回復し、健康を取り戻せたのである。人生は本当に不思議なものだ。50年後、私が七段になるというのも運命というのなら、何と人生はずばらしいんだろうと、出会いに感謝しながら、そう思う

青葉塾道場発行
「合気道通信」
コラム

「明日死ぬかのように生きなさい。永遠に生きるかのように、学びなさい。」ガンジー



古いメモ帳をみていたらこの言葉が出てきた。インドのマハトマ・ガンジーの言葉である。インドの独立の父と言われている。イギリスからのインドの独立運動を指揮した。民衆の暴動という形をとるものでなく

「非暴力、不服従」を提唱した。このガンジーの独立運動は、そもそもイギリスの裏切りが発端である。イギリスは第一次大戦中にインドを将来独立した国にする約束して、インドに、戦争の協力を求めた。イギリスは戦争に勝った。ところが約束を守らなかった。運動は静かに行われた。イギリスの製品を買わない不買運動だった。そのため何度も投獄。1948年に3発の弾丸を撃ち込まれ暗殺される。ガンジーは「非暴力運動中において重要なことは自己の内部にある臆病や不安を乗り越えることだ」といつている。これはもう日本の武術の世界と同じである。直心影流の免許皆伝、幕末の勝海舟もあの動乱期、一度も刀を抜いていない。非暴力、無抵抗運動日本版である。「明日死ぬかのように生きて、永遠に生きるかのように学ぶ」。武術の修行はこの覚悟が必要なのだ。

本田靖生 (合気道七段)

武術家・本多青仁齋靖邦

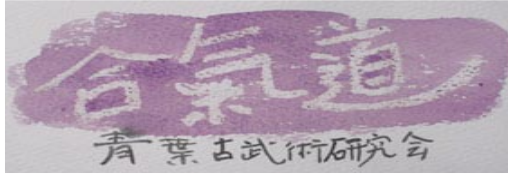
文筆家・青葉太郎

書画・無筆堂一画齋

写真家・菩提亭写多

俳号 無得庵是空

編集主幹・山波平九朗



合気道青葉塾道場

道場主 本田靖生
合気道 七段



創立 25周年記念誌より (平成11年11月23日) あの時から 25年

本田靖生

あれから25年たつてしまつた。そう25年も前のこと、昭和48年、私は青葉台へ引越してきた。あちこちでマンシヨンを探していた中の一つで、国道246号線を真っ直ぐ走つて来て、モデルルームをのぞいて、その場で決めた。まわりは建物は何もなかった。頭金があるだけで、申し込んで入居した。確か八月ごろの入居だったような気がする。直後にオイルショック、狂乱物価。住んでいるマンションを倍で売って引越した人がいた。買ったばかりの住まいは高騰してしまった。私は、はからずも瞬時でお金持ちになつたんだ、と妙な気分だった。トイレットペーパーを買った。トイレットペーパーをい占める人がいて、世は騒然としている。こちらは、新居をやつと購入したんだ、あせつてもしょうがない、と意外と落ちついていて。慌てないのは、五年前から通つてい

る「合気道」のお蔭だろう、とその時、ぼんやりと、そう思った。新宿・若松町、これが本部道場か、とビルを仰いだのは、昭和44年7月半ば、早朝6時のことだった。病後の瘦身、少し猫背、だれもがそういう風体になつて、稽古通いが続くわけがない、と思つていたらしい。ゼロからのスタートとよくいうけれど、25歳で胃を切除、胃が完全な形でないんだから、マイナスからの挑戦だった。不摂生がたたつたのだ。切り刻まれた腹部をなでながら、何とか元の身体を取り戻そうと、焦つていた。出会つた「合気道」という武道は、そういう境遇にピタリだった。稽古に通ううち、道主・植芝吉祥丸先生の所作に、次第に感服するようになった。「いわゆる」武道家になりがち

な、他を圧する威圧感、気負い、傲岸さ、そんなものは全くなかつた。何時も、あたりはさわやかな春風が漂つていた。指導は丁寧で優しい雰囲気包み込まれた。稽古のあと事務所前で挨拶すると、どんな時でも、必ず笑顔で返された。あの頃、この合気道に出会わなかつたら、と思うとぞつとする。それも、植芝吉祥丸先生の「朝稽古」がなければ、あれだけ夢中になつたかどうか。引越した「青葉台」は、まだ生まれればかりの土地だった。周辺は、宅地造成中で、人家もまばらだった。人は思い思いの場所から集まつて、これからコミュニティというところは、子供たちが割りを食う。公共施設はまだ十分ではない。そのあたりに、代々申し送られてくる誰も認める、ガキ大将、もいない。人材が適正に配置されないのだ。なにもなくとも、心身は鍛え育てることが出来ること、合気道で証明しよう、そうだ

道場を作ろうと、即決だった。畳15枚のマンシヨンの集会所。道場開き、植芝吉祥丸道主を迎えて挙行された。宮崎吉政先生も駆けつけてくれた。それが昭和49年2月3日のことだった。私はまだ二段だった。思えば汗顔の至り、若さ故の暴走を、道主・植芝吉祥丸先生は、ニコニコしながら、狭いマンシヨンの拙宅での直会に、遅くまでお付き合ひしていただき、「私は本田さんの新居のお祝いに植芝吉祥丸個人でやってきたんですよ。」と、独特の気配りで、合気道青葉塾道場を、さりげなく、認知していただいた。それが、25年も続いた道場になつたのだ。もう一度いつかこの道場にお招きして、演武を、と思つていたが、残念ながら、今年初頭、入神された。畳15枚の狭い道場で、普段と変わらず、悠然と、華麗な演武を披露していただいた、25年前の「道場開き」での植芝吉祥丸先生を、今でも鮮やかに思い起こすことが出来る。

合気道青葉塾道場 事務局

横浜市青葉区すずき野3-2-1

藤パークビル2F

青葉教育企画センター内

TEL 045-902-1808

FAX 045-903-9026

08067564885

aikidou@ningenkobo.com

http://www.ningenkobo.com/aikidou